

第6講 アイディアの創出

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] アイディアを出してまとめていく方法

1 ボトムアップ法

こまかいところからつくりはじめ、それらをあとからまとめる方法。KJ法 (川喜田 1967, 1970; 大岩 n.d.) など。

- カード (古紙を切ったものなどでよい) を用意する
- 思いついたことをカードに書く
- 全部並べて一覧し、**直感にしたがって** 「似ている」カードをまとめる (いわゆる「カルタ取り」)
- 各グループに、その特徴を表す「ラベル」をつける
- 紙の上に図解する、文章を書くなど

2 トップダウン法

- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ

3 混合方式

マインドマップ (月刊ビジネスアスキー編集部 2010; マインドマップの学校 n.d.) など

- 大きな紙と色ペンを多数用意する
- 中央にテーマをあらわす絵を描く
- そこから周囲に「ブランチ」(branch: 枝) を伸ばし、それに表題をつける
- ブランチを枝分かれさせながら、思いついたことを書いていく
- ことばで書いてもよいが、図や絵を使い、視覚的・色彩的に描くのがよい

4 宿題

自分がレポートで取り上げる内容に関連することについて、現段階でのアイデアをできるだけたくさん書き出す。方法は何でもよい。

次回授業開始までに Google Classroom のストリームにアップロードしておくこと (写真でよい)。

文献

大岩元 (n.d.) 「カード操作による発想法」. <<https://crew-lab.sfc.keio.ac.jp/kj.html>>

川喜田二郎 (1967) 『発想法: 創造性開発のために』 (中公新書) 中央公論社.

川喜田二郎 (1970) 『続・発想法: KJ法の展開と応用』 (中公新書) 中央公論社.

月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ "かき方" 超入門』 アスキー・メディアワークス.

佐藤望 ほか (2020) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 (第3版) 慶應義塾大学出版会.

マインドマップの学校 (n.d.) 「マインドマップはなぜ役立つ?」. <<https://www.mindmap-school.jp/mindmap/why/>>